屋根除雪安全作業指針

１　総則

１－１　趣旨

この指針は、屋根除雪作業における労働者の墜落、落雪災害等を防止するための当該作業上の留意事項について規定したものである。

２　作業指揮者

２－１　作業指揮者の選任

（１）　作業は原則として２人以上で行う。

（２）　屋根除雪作業指揮者安全教育を修了した者のうちから、作業指揮者を選任する。

２－２　作業指揮者の職務

作業指揮者は次の事項を行う。

（１）　作業開始に当たって、あらかじめ次の事項を調査しておく。

イ　屋根除雪対象建物の屋根の構造、雪止めの位置、墜落制止用器具の取付け設備、昇降設備、降雪前の周囲の状況等

ロ　積雪、雪庇の状況、雪おろし場所等

（２）　作業方法、順序、作業者の配置、合図方法の決定、除雪用具の選定を行う。

（３）　作業開始前に安全ミーティングを開き、作業方法、作業者の配置、除雪用具の使い方等必要な事項を打合せ徹底する。

（４）　作業を直接指揮するとともに、保護具の使用状況を監視する。

（５）　作業終了時には、作業人員、除雪用具の点検その他、後片付けの確認を行う。

３　作業準備

３－１　作業場所、周辺の調査

屋根除雪対象建物の状況（屋根の構造、雪止めの位置、墜落制止用器具の取付け設備、昇降設備）及び降雪前の周囲の状況、積雪の状況（積雪、雪庇等）についてあらかじめ調査する。

３－２　除雪用具の選定・整備

除雪用具は毎日点検し、不良品を取除くとともに、次の事項に留意する。

（１）除雪用具は、作業者の体格や体力に合った大きさ、重さのものを使用する。

（２）　スコップ、スノーダンプ等は使用前にパラフィン、ラッカー、

ろう等で雪が付着しないよう整備する。

（３）　スノーダンプの柄の角度の強いもの、先のまくれ、錆等のあるものは使用しない。

（４）　ロータリー式小型除雪機等の除雪機械を使用するときは平屋根に限る。

３－３　作業者の服装

作業衣は、なるべく軽く活動し易いもので、通気性のあるものを選定し、型式検定に合格した適切な保護帽及び墜落制止用器具を着用する。

履物は、カンジキ等滑り止め効果のあるものを用いる。

３－４　安全作業計画の決定

作業場所の状況に応じた安全な作業方法、順序、作業者の配置、墜落制止用器具の取付方法等を決定する。

３－５　安全作業計画の打合わせ（安全ミーティング）

次の事項について、作業前に打合わせを行い徹底する。

（１）　作業方法、作業手順

（２）　除雪用具の使用上の注意

（３）　作業者の配置

（４）　墜落制止用器具の使用上の注意

（５）　保護帽、カンジキの着用等服装

（６）　合図方法

（７）　その他

３－６　作業者の配置

作業者の配置に当たっては、墜落制止用器具のロープが交差しないよう十分な間隔をとるとともに、上下作業にならないようにする。

３－７　合図

作業者同士の無事を確かめ合うための合図を決める。

４　屋根の雪おろし作業

４－１　屋根への昇降

（１）　昇降設備

屋根への昇降は、はしごを使用し、その構造は次による。

イ　固定はしご

（イ）　丈夫な構造とし、著しい損傷、変形又は腐食のあるものは使用しない。

（ロ）　上端は、屋根から１．５メートル以上（踏さん３段以上）出す。

（ハ）　幅は、４０センチメートル以上とする。

（ニ）　勾配は、７５度前後とする。

（ホ）　垂直はしごを屋外に設けることはできるだけ避け、やむを得ず屋外に設けるときは、背面ガードを設け、踏さんと壁との間に適当な間隔をもたせる。

（ヘ）　踏さんを等間隔に設ける。

ロ　移動はしご

（イ）　丈夫な構造とし、著しい損傷、変形又は腐食のあるものは使用しない。

（ロ）　幅は、３０センチメートル以上とする。

（ハ）　屋根雪面より６０センチメートル以上出る十分な長さのものを使用する。

（ニ）　立掛けの勾配を７５度前後とする。

（ホ）　はしごの下端は十分に雪を踏み固め、又は敷板等を使用して滑りや沈下等を防止する。

（ヘ）　はしごの上部を建物の柱、専用の金具に結ぶ等により固定し、転倒、横滑りを防止する。

（２）　昇降の方法

昇降に当たっては、次の事項に留意する。

イ　固定はしご

（イ）　建物との取付部の割れ、腐食の有無、踏さんの欠損、変形の有無等を点検する。

（ロ）　はしご部分に付着した雪庇は、下から十分落とす。

（ハ）　２人以上で同時に昇降しない。

（ニ）　用具類は、背負いロープ等を用いて上げ下ろし、手で持って昇降しない。

（ホ）　はしごを昇り、屋根高さに達したら、はしご上から十分に作業床となるだけの広さの積雪を排除した後、屋根上に移る。

ロ　移動はしご

（イ）　損傷、変形、腐食の有無を点検し、折りたたみ又は繰出し方式のものは、接続部の止め金具の状態を確認する。

（ロ）　屋根へ立てかける部分の雪庇を下から十分落としてから立てかける。

（ハ）　はしごを建物の柱等を利用して固定するなど転倒を防止する。

（ニ）　その他、固定はしごの（ハ）、（ニ）、（ホ）を準用する。

４－２　屋根の雪おろし作業の方法

屋根の雪おろし作業は、原則として次の方法で行う。

（１）　勾配のゆるい屋根、または周囲を自由に利用できる場合

スコップを用いて作業に十分な幅の作業床を確保しつつ、軒先を廻りながら掘り落とした後、スノーダンプ等により掘り落とす。

（２）　勾配の急な屋根、または市街地の如く両隣が密接し、軒側が利用できない場合

スノーダンプを用いて棟から妻側方向に運び落としながら、軒先に向かって掘り下げる。この方法では、屋根上で雪を運搬することになるので雪樋を利用する。

（３）　ビル等平屋根の場合

屋根の先端に識別ポール等を立てたのち、外周の除雪を行う。

屋根上でロータリー式小型除雪機等の除雪機械を使用するときは、次によること。

イ　操作に習熟した者をあてる。

ロ　進行方向に誘導員を配置しない。

ハ　作業範囲を定め、関係のない作業者を立ち入らせない。

ニ　揚げおろしはクレーン等による。

（４）　雪庇落とし

屋根の下で雪庇落としをする場合は、雪庇落とし用具を用いて落とす。

（５）　軒先作業

雪庇落とし等、軒先での作業にスノーダンプを使用しない。最下段の雪止めから軒先側、あるいは軒先１メートル以内には立ち入らない。

（６）　掘り残し

屋根面の滑り防止のため、必要な掘り残しをする。

（７）　上下作業

同一場所での上下作業は行わない。

５　墜落防止

（１）　墜落制止用器具の使用

墜落の危険のある高さ２メートル以上の屋根上、または、はしご上等で作業する場合は、墜落制止用器具を使用する。

（２）　墜落制止用器具の規格

墜落制止用器具は、厚生労働大臣が定める「墜落制止用器具の規格」に適合したものを用いる。

（３）　墜落制止用器具の取付け設備

墜落制止用器具の取付け設備には、以下のような方法がある。

イ　支柱・緊張索方式の墜落制止用器具取付け設備（図１）

ロ　棟木を利用した墜落制止用器具取付け設備（図２・３）

ハ　操作棒を利用した墜落制止用器具取付け設備
（図４）

（４）　踏み抜き防止

スレート、木毛板等の材料でふかれた屋根上で作業を行う場合は、踏み抜き防止をする。

６　屋根雪おろし後の機械除雪

（１）　事前打合わせ

除雪場所、作業方法等について事前の打合わせを行い、状況に適した作業を行う。

（２）　機械除雪

イ　除雪機械の運転は、必要な資格のある技能に習熟した者に行わせる。

ロ　作業区域内に関係作業者以外の立ち入りを禁止し、必要に応じ監視人、又は、誘導員を配置する。

ハ　機械から離れるときは、作業装置を地面に降ろし、主スイッチを切り、キーを抜き取って保管する。

ニ　ロータリー式小型除雪機のシュートに詰まった雪は、運転を停止してから取り除く。

ホ　雪をダンプトラック等に積み込む場合、ドラグ・ショベル等のアーム、バケット等がダンプトラック等の運転席の上を旋回しないように作業する。

ヘ　激しい降雪及び運転による騒音の中にあっても、明確に伝達可能な合図方法による合図を行う。

７　その他作業上の留意事項

（１）　悪天候時の作業中止

強風等で危険な場合は、作業を中止する。

（２）　夜間作業

原則として夜間作業は行わない。

やむなく夜間作業となる場合は、十分な照度を確保する。

（３）　作業者の健康

作業者（特に高年齢労働者や持病を有する労働者）の健康状態に留意する。

別紙

参　　考　　例

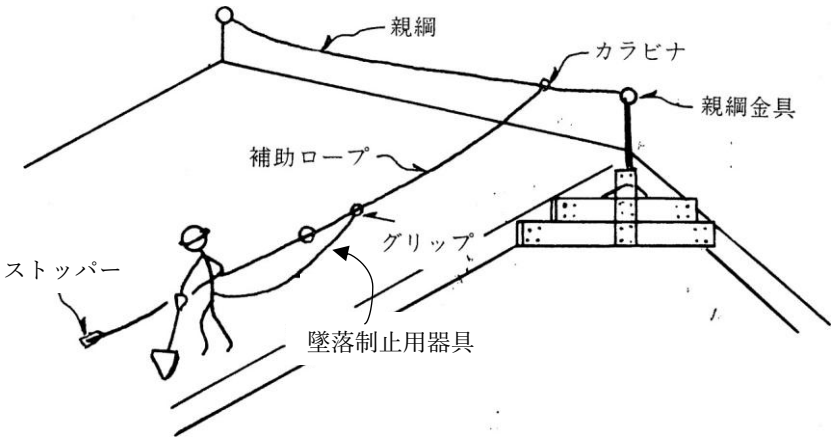


図１支柱、緊張索方式の墜落制止用器具取付け設備

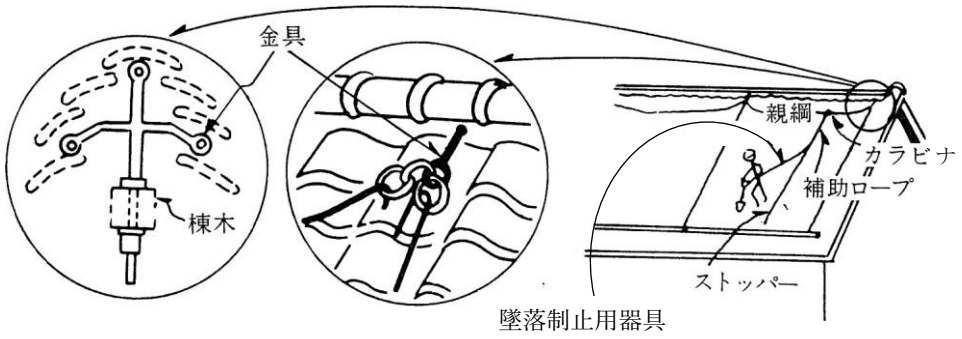


図２棟木を利用した墜落制止用器具取付け設備

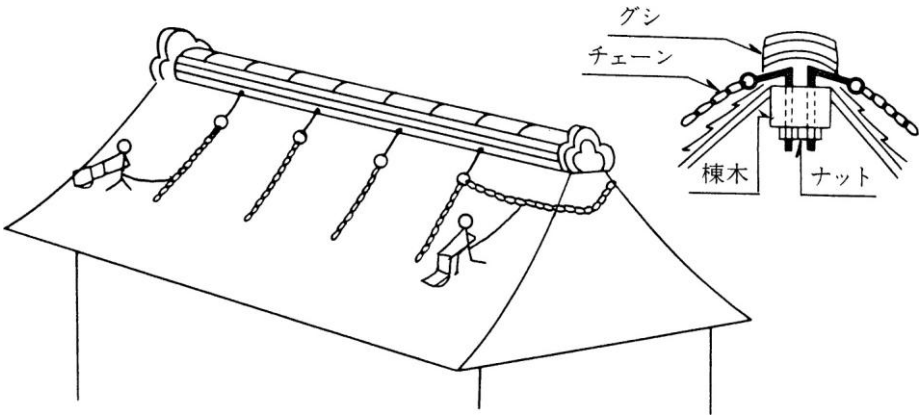


図３建設工事用チェーンを親綱とした例

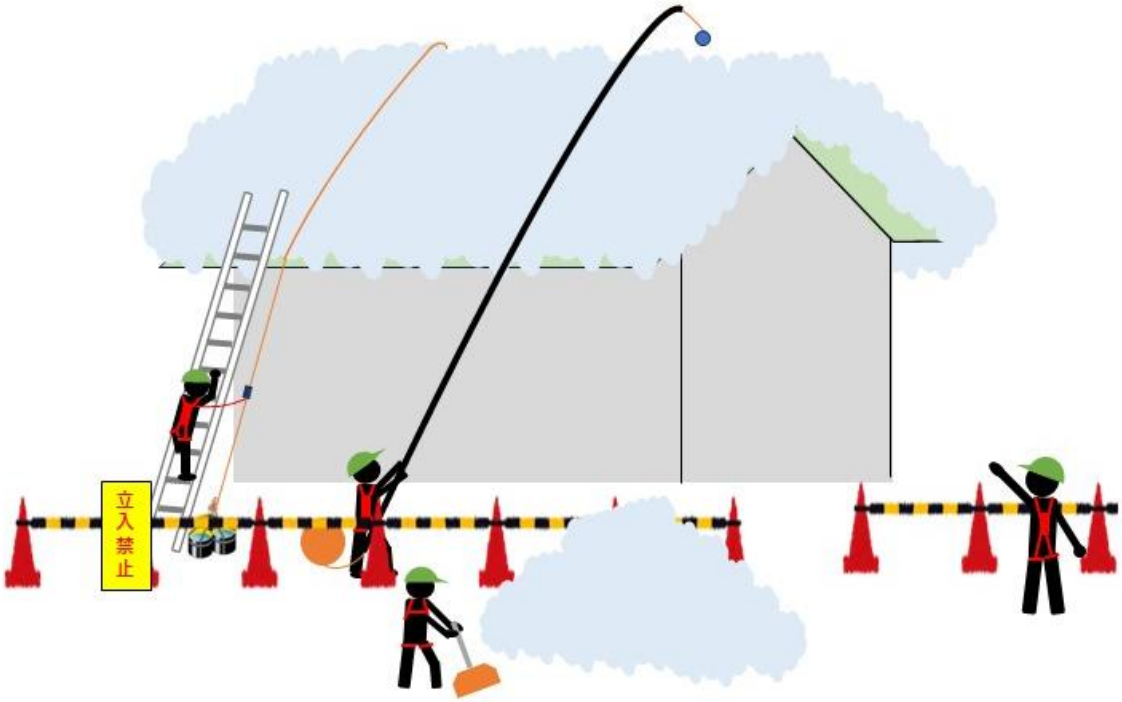


図４「地上からの主綱設置」工法

※「木造家屋等低層住宅建築工事墜落防止標準マニュアル」
（建設業労働災害防止協会）に記載されている方法

※別紙「地上からの主綱設置方法」参照

別紙

地上からの主綱設置方法

「地上からの主綱設置」工法は、操作棒等の機材を用いて屋根に主綱を先行させて設置する方法である。

（1）本工法の特長（図２－39）

①地上から親綱の展開（設置）ができる。

地上から親綱の展開（設置）ができることから、はしごに昇る第一歩（作業開始）から地上に下りてくる（作業終了時）までの間、作業者と親綱との連結状態が確保できる。

②親綱の固定が容易にできる。

固定方法は、布製バケツに水を給水する方式（ウエイトバケット）を採用しているので、建屋の設置条件に左右されることなくアンカーポイントが確保できる。

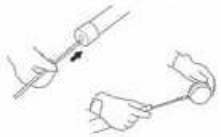
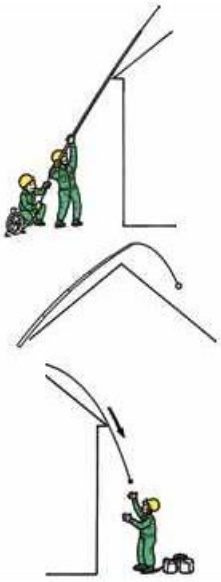
③落下距離が抑えられる。

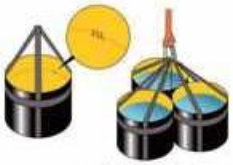
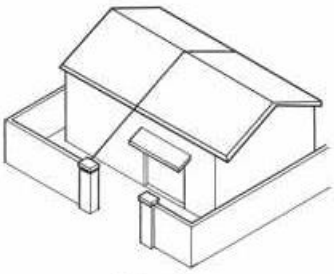
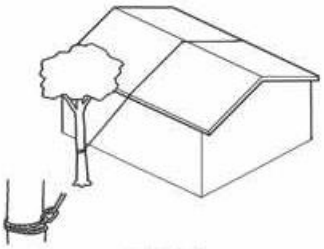
フルハーネス型に安全ブロックを連結して使用するため、墜落・転落等を瞬時に制止することが可能となる。

（2）主綱の設置

操作棒を用いて主綱を地上から設置する。その上で昇降作業等の一連の作業が開始される（表２－４）。

表２－４　主綱の設置手順等

設置手順	図解等
①　準備作業 操作棒にパイロットラインを通し、ラインの先端にガイドボールを接続する。	
②　パイロットラインの送出し 操作棒を伸長し、パイロットラインを屋根の反対側に延線する。	

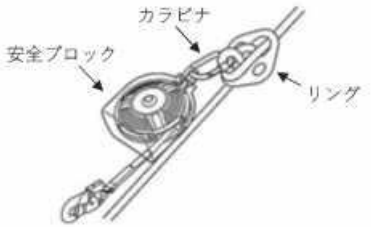
③　主綱とパイロットラインの連結 主綱の先端側とパイロットラインをビニールテープ等で連結する。	
④　主綱の端部を固定 主綱のパイロットラインと連結していない端部を堅固な構造物等に固定する。	 固定の例 （ウエイトバケットの場合）
⑤　パイロットラインの引戻し 主綱の先端側とパイロットラインをビニールテープ等で連結し、パイロットラインを屋根の手前側に引き戻す。	
⑥　主綱の他端を固定 パイロットラインから外した主綱をウエイトバケットにカラビナ等で連結する。また、堅固な構造物に連結する方法もある。	 固定の例 （ウエイトバケットの場合）   固定の例 （門柱や樹木等堅固な構造物への接続の場合）

注意）樋の大きさ、屋根瓦の材質によっては、付属のガイドボールでは延線作業がスムーズにできない場合がある。

（3）屋根への昇降と安全ブロック等の取付け

屋根への昇降と安全ブロック等の取付手順を表２－５に示す。

表２－５　屋根への昇降と安全ブロック等の取付手順等

設置手順	図解等
①　屋根への昇降 主綱にスライド（グリップ）を取付けたのち、墜落制止用器具のD環とスライド（グリップ）のフックとを連結させ、屋根へ昇る（２．５参照）。 ※昇降時はスライド（グリップ）の本体が常に肩より上の位置にくるよう引き上げながらはしごを昇る。	
②　安全ブロックの設置 屋根棟付近で主綱にリングを介してカラビナを取り付け、安全ブロックを取り付ける。	
③　墜落制止用器具のフックの掛け替え 安全ブロックのストラップを素早く引っ張り、ストラップの繰り出しがロックすることを確認したのち、安全ブロックのフックを墜落制止用器具のD環に連結する。連結後、スライド（グリップ）のフックを外す。	

出典：「木造家屋等低層住宅建築工事墜落防止標準マニュアル」P46～48

※上記の設置手順の図は、積雪のない場所での作業を示しているため、
積雪がある場所での作業の場合、ガイドボールや屋根上の状況などが
一部異なります。

雪下ろし作業計画書　　現場名

年　月　日

作業名		事業者		作成者	
使用機械（資材等）	種類	親綱	墜落制止用器具	安全ブロック	ロリップ（伸縮調節器）
	数量				
	種類	はしご	スコップ	スノーダンプ	
	数量				
		固定方法（　　）			
作業期間	年　月　日　～　年　月　日				
選任・指名	責任者	携帯電話（　　）	作業者		
合図方法	笛 ・ 無線 ・ 携帯電話		合図者	責任者・その他（　　）	
立入禁止措置	・ 監視人 （　　人） ・バリケード ・トラロープ ・カラーコーン				
作業場所	場所				
	地形	・平坦 ・勾配（　　）度 ・段差地 ・作業面 （広い）（狭い）		雪止（あり・なし・不明）	
天候	午前	雪 ・ はれ ・ くもり	予想最高気温　℃	予想最低気温　℃	
	午後	雪 ・ はれ ・ くもり	予想最高気温　℃	予想最低気温　℃	
作業方法内容					
安全対策					
指導事項					

配　置　図（作業場所全体を示す平面図）

作業範囲、カラーコーンによるバリケード設置、合図者等

作業計画チェック表　※☑して安全に作業しましょう	
計画中のチェック項目（①③④は決めること）	作業開始前のチェック項目（大丈夫の状態で作業開始）
① 親綱を取り付ける場所は? ☐決めた ☐決めてない	① 墜落制止用器具やヘルメットなど保護具の数は？ ☐大丈夫 ☐ 足りない
② 墜落制止用器具の接続方法は? ☐親綱 ☐安全ブロック ☐その他	② 天候は確認していますか?（悪天候・暖気では？） ☐大丈夫 ☐していない
③ はしごの場所・固定方法は? ☐決めた ☐決めてない	③ 作業計画を作業員に周知しましたか? ☐大丈夫 ☐していない
④ 雪下ろし箇所の立入り禁止区域措置は? ☐決めた ☐決めてない	④ 体調の悪い作業員はいませんか？ ☐大丈夫 ☐確認していない

社長（代表）	課長（作業者）	作業責任者

雪下ろし作業計画書

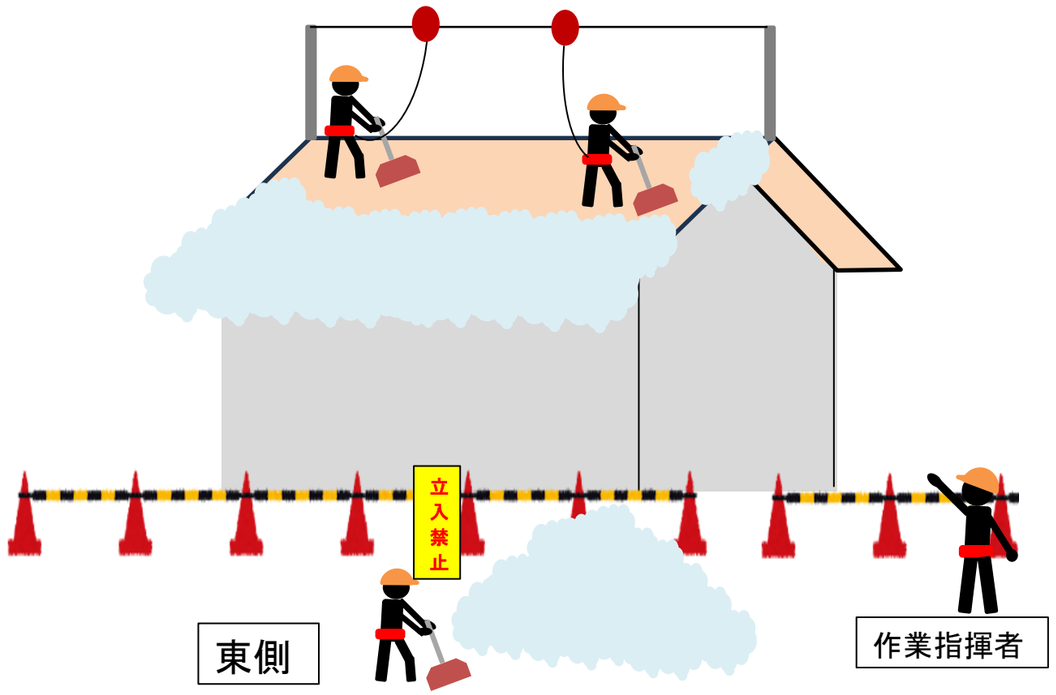
現場名　〇〇様宅雪下ろし

〇〇年　〇月　〇日

作業名	〇〇様宅屋根雪下ろし		事業者	〇〇建設	作成者	安全　一郎		
使用機械（資材等）	種類	親綱	墜落制止用器具		安全ブロック	ロリップ（伸縮調節器）		
	数量	1	3		3			
	種類	はしご	スコップ		スノーダンプ			
	数量	2	3		3			
		固定方法（　　）						
作業期間	〇〇年　〇月　〇日　～　〇〇年　〇月　〇日							
選任・指名	責任者	安全　一郎 携帯電話（　080-1234-5678　）			作業者	作業員3人（責任者を除く）		
合図方法	（笛）・（無線）・携帯電話				合図者	（責任者）・その他（　　）		
立入禁止措置	・監視人（　1　人）・バリケード　・トラロープ　（・カラーコーン）							
作業場所	場所	〇〇様宅屋上						
	地形	・平坦　（・勾配）　20　）度　・段差地　・作業面　（広い）　（狭い）　雪止（あり・なし・不明）						
天候	午前	晴のち曇り　予想最高気温　5 ℃　予想最低気温　0 ℃						
	午後	曇り　予想最高気温　6 ℃　予想最低気温　2 ℃						
作業方法内容	・ 切妻屋根の雪下ろし作業。作業員3名のうち2名が屋根上で作業する。							
	・ 事前に調査した雪止め及び親綱支柱を設置し親綱を張り、その親綱に墜落制止用器具を接続する。							
	・ 東側に雪を落とす場合には作業指揮者と連携を図りながらカラーコーンで立入禁止区域を設け作業を行う。							
	・ 屋根の軒下より1ｍ以内は立入禁止とする。							
安全対策	・屋根上の作業者はヘルメット（墜落時保護用）と墜落制止用器具を装着する。墜落制止用器具は確実に親綱と接続する。保護具は作業前点検により状態の確認を行う。							
	・強風等で危険な場合は作業を中止する。気温が高い場合も雪の滑落の恐れがあるため作業中止とする。							
指導事項	・作業手順や作業員の配置を事前に確実に作業員に周知すること。							
	・使用するヘルメットや墜落制止用器具、安全ブロックを事前に用意しておくこと。							
	・作業開始前は、保護具のチェックや危険予知活動を行い、作業者の体調も確認すること。							

配　置　図（作業場所全体を示す平面図）

作業範囲、カラーコーンによるバリケード設置、合図者等



作業計画チェック表　※☑して安全に作業しましょう	
計画中のチェック項目（①③④は決めること）	作業開始前のチェック項目（大丈夫の状態で作業開始）
①　親綱を取り付ける場所は? □決めた　□決めてない	①　墜落制止用器具やヘルメットなど保護具の数は？ □大丈夫　□　足りない
②　墜落制止用器具の接続方法は? □親綱　□安全ブロック　□その他	②　天候は確認していますか?（悪天候・暖気では？） □大丈夫　□していない
③　はしごの場所・固定方法は? □決めた　□決めてない	③　作業計画を作業員に周知しましたか? □大丈夫　□していない
④　雪下ろし箇所の立入り禁止区域措置は? □決めた　□決めてない	④　体調の悪い作業員はいませんか？ □大丈夫　□確認していない

社長（代表）	課長（作業者）	作業責任者

雪下ろし作業計画書

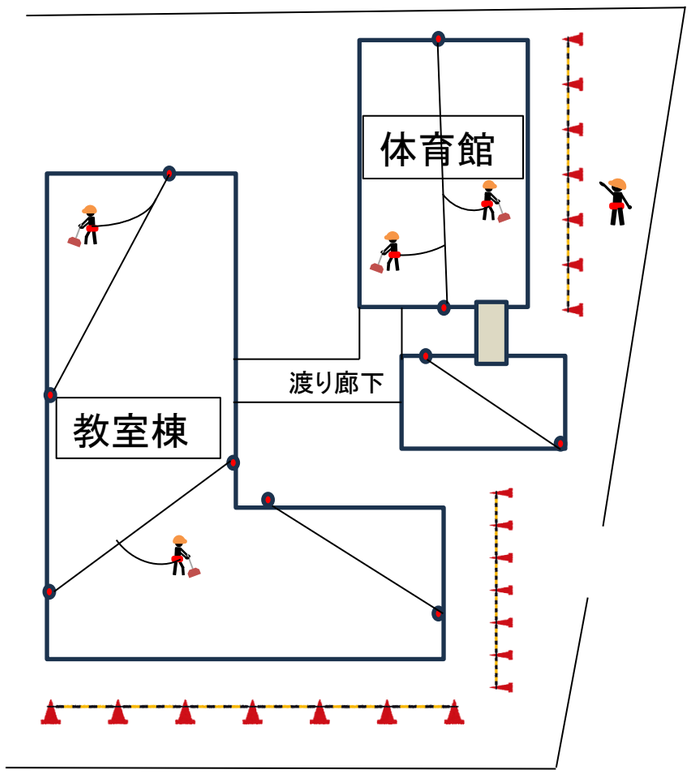
現場名　〇〇校舎雪下ろし

〇〇年　〇月　〇日

作業名	校舎屋根雪下ろし		事業者	〇〇建設	作成者	安全　一郎	
使用機械（資材等）	種類	親綱	墜落制止用器具		安全ブロック	ロリップ（伸縮調節器）	
	数量	5	4		4		
	種類	はしご	スコップ		スノーダンプ		
	数量	2	4		4		
		固定方法（　　）					
作業期間	〇〇年　〇月　〇日　～　〇〇年　〇月　〇日						
選任・指名	責任者	安全　一郎 携帯電話（　080-1234-5678　）			作業者	作業員４人（責任者を除く）	
合図方法	笛　・　(無線)　・　携帯電話				合図者	(責任者)・その他（　　）	
立入禁止措置	・　監視人　（　　人）　・バリケード　・トラロープ　(・カラーコーン)						
作業場所	場所	教室棟・体育館屋上					
	地形	(・平坦)　・勾配（　　）度　・段差地　・作業面　(広い)　（狭い）　雪止（あり・(なし)・不明）					
天候	午前	晴のち曇り　予想最高気温　５ ℃　予想最低気温　０ ℃					
	午後	曇り　予想最高気温　６ ℃　予想最低気温　２ ℃					
作業方法内容	・　図面で示された、教室棟、体育館の屋根の雪下ろしを実施する。業者は作業責任者を選任し、屋根の構造等						
	を事前に調査・確認する。墜落防止措置は、教室棟、体育館に設置している支柱に親綱をつなぎ、親綱に安全						
	ブロック及びランヤード等をつないで作業を行う。						
	・　通路面に雪を落とす場合は作業指揮者と連携を図りながら作業を行う。						
	・　屋根の軒先より１ｍ以内には近づかないようにする。						
安全対策	・　服装や保護具の適正な着用を確認。使用器具の事前点検をすること。						
	・　強風等で危険な場合は作業を中止する。気温が高い場合も雪の滑落の恐れがあるため作業中止とする。						
指導事項	・　作業手順について必ず事前に打ち合わせを行うこと。						
	・　作業指揮者と作業者の間で合図の方法を確認すること。						
	・　緊急連絡体制を確認すること。						

配　置　図（作業場所全体を示す平面図）

作業範囲、カラーコーンによるバリケード設置、合図者等



作業計画チェック表　※☑して安全に作業しましょう	
計画中のチェック項目（①③④は決めること）	作業開始前のチェック項目（大丈夫の状態で作業開始）
①　親綱を取り付ける場所は?　□決めた　□決めてない	①　墜落制止用器具やヘルメットなど保護具の数は？　□大丈夫　□　足りない
②　墜落制止用器具の接続方法は?　□親綱　□安全ブロック　□その他	②　天候は確認していますか?（悪天候・暖気では？）　□大丈夫　□していない
③　はしごの場所・固定方法は?　□決めた　□決めてない	③　作業計画を作業員に周知しましたか?　□大丈夫　□していない
④　雪下ろし箇所の立入り禁止区域措置は?　□決めた　□決めてない	④　体調の悪い作業員はいませんか？　□大丈夫　□確認していない

社長（代表）	課長（作業者）	作業責任者